

今回は、身近な生物でもなければ、生徒が一切関係していない話題だ。九州遠征特別編としてお読みいただきたい。

7月末に全国大会の引率で鹿児島県に行ったばかりだが（Vol.87参照）、なんと9月にも友人の結婚式に呼ばれて鹿児島に行くことになった。九州にはこれまでの人生で一度しか行ったことがなかったのに（それも知人の結婚式だった）、こんな短期間に二度も鹿児島に行くとは。不思議なものである。

さて、今回は一人旅だ。仕事ではない。こんな自由な九州旅行の機会なんて滅多にない。だからこのチャンスは逃したくなかった。**九州にはあの！憧れの！ベニツチカメムシが生息している！**ベニツチカメムシは**ボロボロノキ**という変わった木をホストにしている、この木が九州以南にしか生えていないのだ。

出発前、ベニツチカメムシを見つけ出す瞬間の情景を念入りにイメージトレーニングし、妄想にふけて数日前からソワソワしていた。念には念を入れていろんな機材を用意しておくべきだと思って、重い一眼レフカメラとストロボにレンズ何本も（手が届かない位置にいた時のために望遠レンズも必要だ！）をバッグにパンパンにしまい込んで（危うく、結婚式用のスーツを忘れそうになったが）、興奮を抑えながら出発した。

自由な一人旅といっても、移動時間などを加味すると**許された時間は挙式が始まるまでの1時間半しかなかった**。ほぼダメ元だったわけだが、一縷の望みを胸に、鹿児島市の某林道に駆け込んだ。楽観的な私は、速攻で見つかる想定もしていたのだが、やはりそう甘くはなかった。…全く見つからない！歩みを進めるたびに徐々に焦ってくる。**やばい、もう本当に引き返さないと結婚式に間に合わなくなる…**。こんなところまで来たのに見つからないのかああ…と思ったその時、5m先の木に赤い虫が群がっているのが見えた！うええいだばああ★△※…！！誰もいない林道で一人で歓喜の叫び声をあげた。こんなバラエティー番組みたいな展開があっているのか？！ちょっと気持ちを落ち着かせるために、肩で息をしながら1分くらいベニツチカメムシに近づけないでいた。

震える手でひとしきり撮影をしたあと、笑いながら猛ダッシュで山道を駆け下りて車に駆け込み、何とかギリギリ挙式に滑り込むことができた。まるで、ついさっきまでスパイ任務で敵と死闘を繰り広げていたのに何食わぬ顔で高級レストランに着席するトム・クルーズのように、カメムシの力の字も感じさせない爽やかな笑顔で着座した。本当にギリギリだった。ああ、万事上手く行って良かった…。友人よ、結婚おめでとう。**そして、この地で式を挙げてくれてありがとう**。一生忘れられない最高の結婚式になったよ。そう心の中で感謝を述べながら、友人の晴れ姿はしっかりスマホのカメラで撮影した。

そういえば、国語科のI先生から以前、「知り合いの生物の教員（※私ではない）はね、結婚式に呼ばれた時も式場付近で生き物を探していたんだよ。呆れちゃうよね。」などという話を聞いた。その時は「生物教師ってそういう変わり者がいがちですよー」なんてまるで他人事のように言って笑っていたのが懐かしい。…いやだって、しょうがないじゃん。九州限定のカメムシだよ？誰だってこうなるでしょうよ！

九州で見つけた美しいカメムシ ベニツチカメムシ



ベニツチカメムシ *Parastrachia japonensis*

鹿児島市の某林道にて。日本産ツチカメムシの仲間は全て黒か茶色の地味な見た目だが、ベニツチカメムシだけは鮮やかな赤色で非常に美しい。世の中にはこんなに美しいカメムシがいるのだ。サイズも大きいので、いるところに行けば発見は困難ではないが、ホストのボロボロノキが九州以南に自生するため分布は限られる。Vol.74と79で紹介したミツボシツチカメムシと同じように、母カメムシが子供のためにエサとなる実を運び子育てするという珍しい習性をもつ。巣に戻る際は、来た道を辿るのではなく、周りの景色をたよりにして最短距離を歩く。この不思議な習性についての研究がセンター試験でも出題された。（センター試験2005）



ベニツチカメムシは集団で群れることでも有名だ。虫嫌いにとっては最悪の光景だろうが、私はこの憧れの光景に出くわして歓喜した。